

# 「学都松本」へ

私はかねてから、我々が、人生をより良く全うするためには、健康づくりによって健康寿命を延ばすとともに、どんなに年齢を重ねても、自ら主体的に学んでいくという確たる姿勢を持つことが、大切ではないかと考えております。

幸いにも、松本市は、昔から旧開智学校の建設や、旧制松本高等学校の誘致などにみられるように、市民の学問に対する意識がことのほか高いまちでございまして、「学問の都・学都松本」として発展をまいりました。

私は、先人たちが築き上げてこられたこの「学都松本」を、改めて再認識していただくため、市民一人ひとりが健康な生活を送る中で、生涯にわたって、学び続ける姿が見えるまち、地域や行政が協働してサポートし、「共に学ぶまちづくり」を推進するまち、そして学んだ知識・技術を社会に活かし、次代に引き継ぐ姿が見えるまちを目指して、真の意味での「学都松本」を創造してまいりたいと考えております。

松本市長 菅谷 昭

# 学都松本

松本市・松本市教育委員会では、平成24年度を計画の初年度とする教育振興基本計画で、めざすまちの姿を「学都松本」と決めました。

## 「学びの森づくり」を引き継いで

平成16年に改定した第二次松本市生涯学習基本構想「学びの森づくりをめざして」では、市民一人ひとりの生涯学習の取組みを一本の木の成長にたとえ、市民全体ではそれが松本をおおう大きな森となること（学びの森づくり）を願いました。教育委員会では、市制施行100年を契機に松本市の第二世紀に向かい、この「学びの森づくり」を引き継いだ新たな目標として「学都松本」の実現を掲げ、各種事業に取り組みます。

### 【学びの森づくりの4つの原則】

- ①だれもが自由に学べること
- ②だれもがそれぞれの学習について支援を受けられること
- ③だれもが学習についての情報をたやすく得られること
- ④だれもが学習の成果を社会に還元できること

## 「学都松本」としてめざすまちの姿（教育振興基本計画 基本構想）

### I 学び続けるまち

子どもからお年寄りまでが、生涯にわたって学ぶことができる環境が整い、市民一人ひとりが自らの意思で何を学ぶかを決め、学び続けるまち

### II 共に学ぶまち

市民一人ひとりの学びを地域や行政が協働してサポートし、「共に学ぶまちづくり」を推進するまち

### III 次代に引き継ぐまち

市民一人ひとりが学んだ知識・技術を社会に生かして、次代に引き継ぐまち

## 「学都松本」に向けて求められる力

市民一人ひとりの様々な学びを通して、次の「学都松本」につなげる力を育み続けます。

- |                       |                  |
|-----------------------|------------------|
| (1) 自ら学び、考え、創造する力     | (5) 命の大切さ、思いやりの心 |
| (2) 主体的に行動し、挑戦する力     | (6) 情感豊かな心、人間性   |
| (3) 我慢する力、やり遂げる粘り強さ   | (7) 確かな学力、健康・体力  |
| (4) 人間関係を築くコミュニケーション力 |                  |

## 「学都松本」への取組指針

次の5つの指針に基づいて取り組みます。

- (1) 一人ひとりが生涯にわたって人間性を培う教育をめざします。
- (2) 子どもの感性を磨く様々な取組みを進めます。
- (3) 不易を貫き、いつの時代にあっても変わらない大切なことを継続します。
- (4) 地域とともに歩みます。
- (5) 「ある」から「する」へ転換し、「点」から「線」・「面」へ活動を広げます。

# 一人ひとりを大切にしてきた教育活動

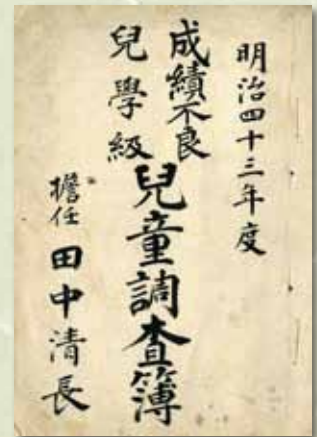
松本の教育の歴史の概要を年表としてまとめました。あわせて、一人ひとりの個を尊重した取り組みを紹介いたします。

こうしてみると、いかに先人たちが、一人ひとりの人権を大切に考えて、きめ細やかな教育に取り組んできたかが、わかりますね。

こういう伝統を、今こそ、受け継いで発展させていきたいものです。

## 成績不良児学級(落第生学級)―明治中期から明治後期まで

明治 23 年、松本尋常小学校(現開智小学校)で、成績順に児童を振り分ける学級編成が行われました。成績の低い児童たちのクラスに、学年で一番優秀な教員を担当につけるというこの取組みは、日本で初めての特別支援教育と評価されています。この取組みは様々な障害にあい、明治 27 年に中止となってしまいましたが、明治 41 年の「第一学級」へと受け継がれていきます。第一学級では、内容を簡単にして授業進度を他のクラスに合わせるという配慮がなされました。こうした取組みは、その後の促進学級や補助学級に大きな影響を与えました。



## 子守教育所―明治中期から昭和初期まで

誰でも入学できる近代的な学校が誕生しても、就学できない児童は多くいました。その一例が、家が貧しく幼いころから子守奉公に出ていた子どもたちです。こうした子どもたちへの教育―子守教育は全国で行われてきましたが、松本では、明治 31 年頃からはじまっています。同 32 年には子守教育所として松本尋常高等小学校内に開設され、34 年から松本幼稚園内に移転しました。通常の保育時間後に子守を集めて授業を行い、昭和 10 年まで存続しました。教育所の噂が広まり、岐阜県や富山県からも子守が大勢来るようになったといわれています。開智学校ではほかにも、視覚障害者のための「松本盲人教育所」(源池部) や料理屋や芸妓の修業に出ていた子どもたちのための「裏町特別学級」など、就学が困難な児童への教育を積極的に行ってきました。



## 旭町中学校桐分校―昭和 30 年から現在

義務教育を修了していない人に、義務教育を保障しようとする、全国でただ一つの矯正施設内の公立中学校です。昭和 30 年の開校から平成 24 年度まで 721 名(うち 10 名の聴講生)が卒業を果たしており、卒業生の最高年齢は 74 歳です。ここでの学習は、夏休みも冬休みも中間休みもなく、就学期間である一年間を通して続けられます。一日 7 時間の授業に加え、夜間 3 時間の自習時間を含め、都合 10 時間の学習を毎日続けるため「日本一勉強する中学生」と言われています。学ぶことから何十年と遠ざかった生徒たちにとって並大抵のことではありませんが、黙々と学習に取り組んでいます。

## 聴覚障害者と学ぶ成人学校—昭和中期から現在

昭和 47 年度から中央公民館で成人学級の一環として、連続講座を開催。聴覚障害者の学習意欲の向上と社会参加への意識を促すとともに、参加者の連帯感を深め地域に暮らし生きる市民の一人として、共に悩み、考え、学ぶ場として、継続しています。また、平成 17 年度から聴覚障害者自身が講師となり、「手話教室」を開催し、受講生(市民)とともに学び、考え、交流しています。障害のあるなしに関わらず、住み慣れた地域のなかで、様々な人たちがそれぞれの悩みや課題を共有し、認め合いながら、ひとりの人間として、自由に平等にいきいきとした暮らしを切り拓き、創造する社会づくりをめざしています。

## やまびこ文庫及び対面朗読サービス—昭和後期から現在

本を読みたいのに、身体が不自由で図書館へ行けない方のための家庭配本事業として、昭和 53 年 6 月 6 日にやまびこ文庫の配本がスタートしました。目の不自由な方への対面朗読サービス、点字図書、大活字本、録音図書、視覚障害者用デジタル図書(デージー図書)など、ボランティアの皆さんの支えにより、本と利用者の方とのかわりを広げています。

また、昭和 54 年 10 月から、あがたの森図書館が分館となったのをはじめとして、身近な場所への図書館の設置を進めてきました。



## 学校給食のアレルギー対応食提供事業—平成 11 年から現在

松本市の学校給食では、平成 11 年 1 月から、児童生徒の個々の症状に応じたアレルギー対応食を提供しています。食物アレルギー疾患をもつ児童又は生徒が、学校給食を等しく楽しく安全に食べられるよう、基準に沿ったアレルギー対応食の提供を行っています。平成 24 年度末現在 171 人の児童生徒が提供を受けています。

## 中山子ども公民館事業—平成 14 年頃

松本市では、子どもの自主性を育てるために、様々な取組みがされてきましたが、その一つが平成 14 年から中山地区で取り組まれた「中山子ども公民館」です。子ども公民館では、自分たちの手で夢を実現できるように子ども同士が時間はかかっても、企画・立案から実行まですべてを子どもたちが行い、大人はそれを支援し、見守ります。基地づくり、コメづくり、地域の清掃や新聞づくりなどの活動に取り組みました。子どもたちは、うまくいかないことや失敗も乗り越えながら、意欲的に、継続して取り組むことにより、力強く成長していきました。

# 「学都松本」のあゆみ

|    | 年 代    |         | で き ご と                                                                    |
|----|--------|---------|----------------------------------------------------------------------------|
|    | 和 暦    | 西 暦     |                                                                            |
| 寛政 | 5年     | 1793    | 戸田氏 新町学問所を移転し崇教館を設置                                                        |
| 天保 | 年間     | 1830～44 | 松本藩内の寺子屋の数がピークを迎える                                                         |
| 明治 | 3年10月  | 1870    | 崇教館を松本藩学として開校                                                              |
|    | 5年 2月  | 1872    | 筑摩県の初代参事永山盛輝 「教育」を立県の指針とする(学校創立告諭書(布令))                                    |
|    | 5年 5月  |         | 藩学を継承した筑摩県学を本町女鳥羽河畔の全久院跡に開校                                                |
|    | 6年 5月  | 1873    | 開智学校が、県学の教員の大半を受け継いで開校                                                     |
|    | 6年11月  |         | 松本城天守を会場として第一回松本博覧会の開催                                                     |
|    | 9年 4月  | 1876    | 擬洋風建築の開智学校校舎が完成                                                            |
|    | 9年 7月  |         | 第十七番中学変則学校(現長野県松本深志高等学校)を開智学校内に設置                                          |
|    | 13年    | 1880    | 奨匡社が結成され、自由民権運動が盛んに                                                        |
|    | 24年 5月 | 1891    | 開智書籍館(現松本市中央図書館) 松本尋常小学校内に創設                                               |
|    | 31年 8月 | 1898    | 私立戊戌学会(現松商学園高等学校)が創立                                                       |
|    | 39年 9月 | 1906    | 明治三十七、八年戦役記念館(現松本市立博物館) 松本尋常高等小学校内に開館<br>開智書籍館を記念館内に移転し、開智図書館と改称して、市民に一般公開 |
| 大正 | 8年 4月  | 1919    | 松本高等学校(現信州大学)が設立                                                           |
|    | 12年 4月 | 1923    | 松本第二中学校(現長野県松本県ヶ丘高等学校)が開校                                                  |
|    | 14年 1月 | 1925    | 私設の自由な学習の場として、松本自由大学が開設                                                    |
| 昭和 | 4年     | 1929    | 民俗学研究の「話をさく会」が始まる                                                          |
|    | 5年11月  | 1930    | 史蹟名勝天然記念物保存法により松本城が国史跡に指定される                                               |
|    | 10年 4月 | 1935    | 松本尋常高等小学校の1市1校制を廃止し、多校制とする                                                 |
|    | 11年 4月 | 1936    | 松本城天守が、国宝保存法により国宝に指定される                                                    |
|    | 15年    | 1940    | 松本市歌の作成 「宜しく学都と呼ぶべき此処に」とうたわれる                                              |
|    | 22年 4月 | 1947    | 旧松本市公会堂を転用して松本市公民館を設置                                                      |
|    | 23年 3月 | 1948    | 市内6年生合同による小学校卒業記念音楽会(交流音楽会)を開催                                             |
|    | 24年 5月 | 1949    | 松本医科大学、松本高等学校、松本医学専門学校、長野師範学校など8校が併合され新制の国立信州大学が発足                         |
|    | 25年 6月 | 1950    | 松本城の解体復元修理(昭和の大修理)が5年の歳月をかけて実施(昭和30年完成)される                                 |
|    | 27年 4月 | 1952    | 「街を花いっぱいにする会」の誕生、花いっぱい運動始まる                                                |
|    | 28年 4月 | 1953    | 松商学園短期大学の発足                                                                |
|    | 30年 4月 | 1955    | 旭町中学校桐分校を松本少年刑務所内に設置                                                       |
|    | 33年 9月 | 1958    | 第1回市民祭 陸上競技が行われる                                                           |
|    | 34年    | 1959    | 各地区の公民館を中央公民館と並ぶ独立・並列の地区公民館として位置づける                                        |
|    | 35年11月 | 1960    | 第1回松本市芸術文化祭を開催                                                             |
|    | 36年 3月 | 1961    | 開智学校校舎が学校建築としてはわが国最初的重要文化財に指定される                                           |
|    | 47年 4月 | 1972    | 松本短期大学の発足                                                                  |
|    | 52年10月 | 1977    | 松本市市民憲章                                                                    |
|    | 53年    | 1978    | 第33回国民体育大会(やまびこ国体)開催に伴い市民のスポーツ気運が高まる                                       |
|    | 54年10月 | 1979    | 市立松本図書館の分館第1号としてあがたの森図書館を開館                                                |
|    | 60年 3月 | 1985    | 音楽文化ホール(愛称ザ・ハーモニーホール)開館                                                    |
|    | 60年 9月 |         | 音楽とスポーツ都市宣言                                                                |
| 平成 | 3年 8月  | 1991    | 松本市総合体育館竣工                                                                 |
|    | 3年10月  |         | 市立松本図書館を現在の場所へ移転新築し、松本市中央図書館と改称                                            |
|    | 4年 9月  | 1992    | 第1回目のサイトウ・キネン・フェスティバル松本開催                                                  |
|    | 5年 7月  | 1993    | 信州博覧会・国宝松本城400年まつり開催                                                       |
|    | 6年 3月  | 1994    | 松本市生涯学習基本構想を策定                                                             |
|    | 11年 3月 | 1999    | 史跡松本城太鼓門枳形復元整備工事竣工(国宝松本城太鼓門復元記念まつり開催)<br>松本市中央公民館(Mウイング内)竣工                |
|    | 12年 3月 | 2000    | 松本まるごと博物館構想を策定                                                             |
|    | 14年 4月 | 2002    | 松本市美術館を開館<br>松本大学が発足                                                       |
|    | 16年 3月 | 2004    | まつもと市民芸術館竣工                                                                |
|    | 19年 6月 | 2007    | 学都松本の目標のひとつ、教育実践活動「まつもと市民生いき活動」開始                                          |
|    | 22年 7月 | 2010    | 学都松本(学び続けるまち、共に学ぶまち、次代に引き継ぐまち)に向けた取組みを定める                                  |
|    | 24年 3月 | 2012    | 松本市教育振興基本計画を策定                                                             |
|    | 24年 9月 |         | 第1回学都松本フォーラム(学都松本をめざして)を開催                                                 |
|    | 25年 3月 | 2013    | 健康寿命延伸都市宣言                                                                 |
|    | 25年 6月 |         | 学都松本のイメージカラーを薄緑色に、9月を「学びの9月」と定める                                           |

井伏鱒二の小説「駅前旅館」に、「信州では山の中の馬子でも馬を曳きながら、中央公論とか文藝春秋というような雑誌を読んでいるそうだ」という一節があります。

「馬子でも」という表現に問題はありませんが、一つの教育の姿を表しているのではないのでしょうか。

自分の仕事の影響を及ぼす範囲が、たとえどんなに狭く小さなものであったとしても、たとえば、本を読むことをとおして、いつも自分の生き方を省み、世の中のあるべき姿について考え、そして、世界や未来に思いをはせる。

ここには、教育というものが、何より自分が自分で行う自己教育であること、他者や世界を視野に入れてなされるべきものであること、そして、日々の暮らしの中で生涯にわたって実践されるものであることが、はっきりと示唆されています。

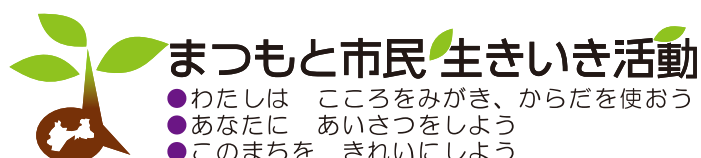
これらは、長野県の教育が大事に守り続けてきた学びの典型ですが、松本市の教育も、このような伝統を受け継ぎつつ、教育と文化を重んじる風土の上に、すぐれた実践を積み重ねてまいりました。

この馬子のように、私たち一人ひとりが、自らを「途上にある者」として、人間であることに向けて真摯な自己教育を生涯続けていくこと。このことこそは、「人間性をつちかうことを重んじ」と市民憲章に謳う松本市の教育の水脈です。

今後も先達の思いを受け継ぎながら、次代につながる「学都松本」の教育の実現に向けて、取り組んでまいります。

市民の皆様のご理解・ご支援を心からお願い申し上げます。

松本市教育委員会



学都松本リーフレット 第2号  
発行 松本市教育委員会 平成26年3月発行

一人ひとりが あたりまえのことをこつこつと続けて かけがえのないいのち 生きいきとかがやくように